



絵本の読み聞かせボランティア

—絵本を子どもたちに届けたい—

—絵本の読み聞かせボランティアの活動の起源を教えてください。

図書館は、子どもが本と出会うために、「読み聞かせ」を大切にしています。平成16年、くにたち中央図書館が、「絵本の読み聞かせボランティア養成のための講座」を開催しました。

絵本が好き、子どもたちに絵本を読みたい、声を出すことで役に立ちたいなど、私たちは色々な思いから受講しました。

講座では、子どもたちに絵本を読むことの意味や絵本の選び方、持ち方、頁のめくり方、声の出し方などを学びました。

最初の講座から14年経ち、平成23年には第2回目の講座が行われ、現在19名（最年長は80代）で活動しています。

—一会の具体的な活動内容について教えてください。

絵本を子どもたちに届けることが、子どもたちの充実した読書活動につながっていくことを願って絵本の読み聞かせをしています。

中央図書館、図書館分室で行われている「絵本の時間」「おひざにだっこ」の他、子ども家庭支援センターや児童館で行われているカンガルー広場でも絵本の読み聞かせを行っています。

絵本の読み聞かせを行う上で、私たち自身も絵本を知ることが必要です。月に1回勉強会を行い、その季節や場面にあった絵本を紹介するほか、各施設で読み聞かせを行った時に気づいたことや経験したことなどの情報共有も行っています。

—絵本を読む際に、気をつけていることはありますか？

事前に読む絵本、読む順番を決めているのですが、集まった子どもの年齢層を見て、対象年齢に合った絵本に急きょ取りかえることもあります。子どもがお話の部屋に入ってくるギリギリまで、この絵本でいいかな？絵本を読む順番はこれでいいかな？と緊張しています。

同じ絵本でも、読み手によって伝わり方が異なるので、ボランティア同士で互いに読み合い、アドバイスをすることで、新鮮な気づきがあり、絵本の世界が広がります。

あとは、絵本を読む当番のときは風邪をひかないように体調管理に気をつけています。

—活動の中で印象に残っている出来事がありますか。

読み終わってから、今日読んだ絵本を手にとって借りていく子がいるときは、その絵本が子どもにマッチしたのだと嬉しく思います。

小さい頃から来ていた子が、小学生になって、図書館で何冊も本を抱えているのを見かけ、私たちの活動が子ども達の読書につながっているのだと感じました。

中央図書館で行われている「おひざにだっこ」は、0歳～2歳向けの絵本と手遊びの時間です。平成26年にブックスタート事業が始まって、0歳から絵本に親しむ、ご家庭での関心も広まって、おひざにだっこは大盛況です。おひざの時間が終わってから「あの手あそび、教えてください！」と聞かれることがあります。説明しながら、練習してよかったと思い、もっと頑張ろうとモチベーションがあがります。

—一会としての今後の課題を教えてください。

絵本の時間に来てくれる子どもの年齢の幅が広いので、普段の絵本では物足りない小学生のために、「小学生スペシャル」と題して、春・夏・冬休みに特別な絵本の時間を実施しています。子どもたちの読書離れが進んでいると言われてはいますが、少しでも多くの子どもたちに読書活動のきっかけになるよう色々な角度から本に出会える活動を続けていきたいと思えます。絵本の世界も奥が深いので、日々の勉強は欠かせません。子どもたちのために、読み聞かせの質を落とさないように今後も努力を続けていきたいと思えます。



絵本の読み聞かせボランティア

平成16年	くにたち中央図書館主催「絵本の読み聞かせボランティア養成のための講座」を開催
平成23年	第2回「絵本の読み聞かせボランティア養成のための講座」を開催
現在、中央図書館他、市内公共施設にて絵本の読み聞かせを実施	